

## 第一節 大村の方言

## ◆ 大村の方言研究の歴史

## ■ 一・大正五年（一九一六）発刊の『長崎県東彼杵郡誌』に見る方言

凡例によれば調査は一〇〇年前の大正四年（一九一五）現在とある。一定の調査様式に拠り、町村の小学校長に委託し、その成果を基に編成されている。

方言については、古来その数は少なくなく、村によって多少の差違はあるが東部九カ町村（現在の大村市域）では純然たる大村方言が用いられている。郡誌に掲載された方言は接頭語四、接尾語三を含め六〇例にすぎないが大村現在も通用する大村方言で、一〇〇年の隔たりを超え、祖先の息吹を直に感じる。

## ■ 二・昭和十二年（一九三七）校友会誌『玖城』掲載の「大村の方言」

大村中学国語科教師、志田一夫が中心となり同松本豊、清水辰一と共に、教え子の卒業生や在校生の協力を得て、昭和八（一九三三）～九年（一九三四）の一年間を費して、当時東彼杵郡に属した一八町村から、主として臨地調査により収集した方言は単語三三一五に及び、これを五十音順、採取した町村別に分類。また文法上の見地から標準語との比較整理を行った。

この「大村の方言」は県や文部省にも高く評価され、九州大学附属図書館をはじめ各地での研究資料として活用された。また東條操編『全国方言辞典』には、その中から二〇数語が加えられた。さらに昭和五十七年には大中三三会「大村の方言」刊行委員会により、これらを集約し単行本『大村の方言』が出版され、大村市内外の研究者、愛好家に重用

されることになった。

### ■三 小路言葉

志田一夫の研究によれば、小路言葉とは、本小路、外浦小路、小姓小路、上小路、草場小路など江戸時代武家屋敷のあった所で使われていた御殿言葉のことである。

その由来は、四代藩主純長や九代藩主純鎮の夫人や一二代藩主純熙の側室が京都から来ていた<sup>(1)</sup>ので、藩では小路(武家屋敷街)に住んでいた藩士の夫人や娘に公卿言葉を学ばせ、御殿では方言を禁止した。その名残を止めるのが小路言葉であるが、調査の時点でその御殿言葉で話ができるのは滝口、末松、藤田の三夫人のみであったという。現在は殆ど使用されることはない。

その特色は、中古時代の名残りを止め、上品な言葉づかいであった。具体的な事例として数例を挙げることにする。  
・ごろうじまつせ(ご覧下さいませ)、ようごんざりました(よくまあお出で下さいませ)・おさよさまでござります(仰せのとおりでございます)、おうせつけまつせ(仰せつけ下さいませ)、おまんさ(あなたさま)、だんな(ん)さま(主人に向かっていう言葉)、おしゅさま(身分の高い人の奥様に向かっていう言葉)

### ■四 昭和三十年代の「大村方言」研究

昭和三十年代には大村の方言について左記のような専門家・研究者による本格的な研究が展開された。

一 西島宏「長崎県大村市萱瀬方言の考察―資料及び分析―」(長崎大学学芸学部編『人文科学研究報告』第五号 長崎大学学芸学部 一九五五)

二 林田明「大村方言の助詞―日本語方言文法の考察―」(千葉大学文学部編『文化科学紀要』四 千葉大学文学部 一九六二)

三 林田明「大村湾東海岸の人称名詞」(広島大学国語国文学会編『国文学攷』二七 広島大学国語国文学会 一九六二)

四 林田明「大村方言の表現」(広島大学国語国文学会編『国文学攷』二八 広島大学国語国文学会 一九六二)

五 林田明「長崎県大村市玖島郷大村方言のあいさつことば」(広島大学方言研究会編『方言研究年報』六 広島大学方言研究会 一九六三)

■五、『大村史談』第九号・第十号発表の志田による大村方言の研究論文

第九号では大村方言の母体である国語について、北はアイヌ語、下って朝鮮語(韓国語)、琉球語、台湾語(中国語)、外来語(南蛮語)と比較しながら巨視的に国語の成因を捕え、第十号では標準語と対比しながら方言の中にこそ我々の祖先のなまの息吹きが残っていると、方言の語源についても様々な観点から分析され、方言研究にも一石を投じた。

■六、大村弁で語ろう会による会誌発行

平成十年、山浦政喜を中心に大村方言愛好者一三人が集まり、大村弁で心おきなく語り合うなかで、会誌発行の議がまとまり、第一集を十一年三月に発行以来大きな反響を呼び期待されていたが、継続が困難となり、平成二十三年七月の第一四集をもって廃刊となる。

以上が大村方言研究の歴史であるが、次の表3-1-6は臨地調査で採取した方言の一覧である。そのうち表3-1-6は用例を右記志田一夫の研究実績と喜々津健寿『川棚の地名・人・方言』から引用し、作成した。

(田中 誠)

表3-2 生理現象・病気等

分類	方言	説明	
生理現象	ぐのみする	丸のみする	
	つづ	唾液	
	めあね	目やに	
	ゆだれ	唾液・よだれ	
	しっこする	小便の子供ことば	
	うんこする	大便 //	
	へへる	放屁すること	
	しかぶる	主として小便の粗相	
	たりかぶる	// 大便の粗相	
	ひがらめ	やぶにらみ	
	はなつんぼ	匂いのかぎ分けができない	
	ひよわか	虚弱なこと	
	なえた	疲れた	
	病気	ぶかげん	健康を損なうこと
		ねおる	病気になる
ねはめる		寝たきりになる	
こずく		咳をする	
げえーする		嘔吐する	
しゃくのつる		胃けいれん	
あかはら		赤痢	
たける		病人が呻吟する	
はらくだし		下痢する	
たんこぶ		頭のうち瘤	
にがね		根太・はれもの的一种	
せく		腹がせく、痛む	
ちけそこなう		ノイローゼ・ヒステリーなど	
きゃーまぐるる		失神する	
おずみつく		失神から正気を取りもどす	
からすまがり	腓(こむら)がえり		

表3-1 体の部位

位置	方言	説明
頭部	かんげ	髪の毛
	きょうまき	つむじ(うず巻状)
	ぼのつちよ	ぼんのくぼ
	むこづら	ひたい(おでこ)
	みみんご	耳垢
	はなんす	鼻孔の奥
	ふうたびら	頬(ほっぺ)
	めんくんたま	目玉
	胴体	へき
ぼんぼん		腹部の子供ことば
臀部	しなな	お尻
	しりべた	//
	じご	肛門
	けつ	//
	ちんちん	陰茎の子供ことば
	おめちゃん	陰部(女) //
下肢	またぐら	ふとももの間
	ももど	太もも
	ひざんかっぼ	膝頭
	あしんはら	足先のうら
	べた足	偏平足

表3-4 動物・植物

方言	標準語
あかはら	いもり
へんぶ	とんぼ
いきもん	生物
いげ	とげ(刺)
いそぞうら	海綿
いん	犬
うまこやし	やくし草 又はたんぼぼ
くちなわ	蛇
ひらくち	まむし
ねずみとり	青大将
どんく	蛙
しょうけどんく	がま蛙
すあれ	蟻
だぐま	川にいる手長蝦
がね	かに
ちょんぎ	蝗(いなご)
つばくうめ	つばめ
どんぼ	川はぜ・魚
へんぶ	とんぼ
ぼうぶら	南瓜
むかぜ	百足(むかで)
なば	きのこ
はしかいん	狂犬
あまめ	ごきぶり

表3-3 自然現象・気象

方言	標準語
あめんふる	雨がふること
いなひかり	いなずま
ううみず	洪水
ううかぜ	大風・台風など
こちんかぜ	東風
はえんかぜ	みなみかぜ
つがうしか	寒さが身にしむこと
ほめく	むしあつい
ぬっか	暖かい
よかうり	恵みの雨
かんかんでり	うだるような暑さの日照り
しなやか	おだやかな天気
やにっか	むし暑い
ずざんか	うすら寒い
やましお	山くずれ(大雨のあとの)
こうけ	かんぱつ

表3-5 大村に初めて来た人に通じにくい方言

方言	意味・用例
いが	赤ん坊 いが守り
なおす	品物を定まった場所にしまい込む
ちんちよか	風変わりなことやもの
ほがす	穴をあけること
うしつる	捨てる
よんによ くんなっせ	沢山ください 買い物などで
うच्चよく	おいてきぼりにする 放っておく
はよ はってきなっせ	早く行ってしまいなさい、他を気にせず
しゃっぺすんな	差し出口しなさんな
だま	うそ だましくる
かんめと〇〇するな	決して(構えて)〇〇するな
いちくえ	食べてしまいなさい
がね	蟹
ひらくち	まむし
しょうけどんく	蝦蟇 ひきがえる
えげく	ねたむ

表3-6 臨地調査の結果(平成23年11月～26年10月)

方言		志	喜	標準語	備考
あ 行					
あ (7)	あっちゃこっち		△	あちらとこちら取りちがえ	あっちゃんこっちゃん(逆)
	あんたんひゅうら			とんでもない方向	
	あてんなる	○		邪魔になる	
	あくせうつごと	△		うんざりするよう	あくしや(処置に困る)
	あいそもごそもなか			とりつくしまもない	
	あったらか	○	○	惜しい	(喜)もったいない
あもよ	○		化けもの(子供ことば)		
い (9)	いっかかっこ			みんなも一緒になって	
	いっちゃんなか	○	○	ちっとも 少しも	
	いけどき	○		休息時のおやつ	休息
	いりあがる			感情を高ぶらせる	
	いひようもん		○	変わりもの	根性まがり
	いたぐらめ		○	あぐら	
	いやましゅう			しっこく	
	いっしょくた			いっしょにぶちこむ	
いっとき そっとき			当分はだめ		
う (10)	うったつ			よそ行きに着替える	
	うさんびようか			うっかりしている	
	ううよか			おおざっぱか	
	うまかった うしまけた		○	「旨い」を強調する語呂合わせ馬が勝ち牛が負けたとつづける子供ことば	
	うのうし	○	○	牝牛	
	うっかか			もたれかか	
	うさんびようか			ずさんでいいかげん	
	うーばんげーか	○	○	うかつ、粗雑	
	ううづらにっか	○	○	大へんにくい	
ううどっこい			意外なことで大変だ		
え (1)	ええころかげん			いいかげん	
お (8)	おーぜ			えらい、意外にも、	
	おき	○		火がついて赤くなった木や炭	
	おげもん			さぎ師、たぶらかす人	
	おおどか	○	○	おおちゃく	
	おんじもん			長男以外の男	
	おっちゃん	○	○	落っこちる	
	おおきん	○	○	ありがとう	(志) おうきん
おずみつく			失神から正気をとり戻すこと		
か 行					
か (3)	からすまがり			腓(こむら) 返り	
	がんがんしま	△		あの世、死後の世界(子供ことば)	がんがんさま(神・仏の子供ことば)
き (2)	からう	○	○	背負う	
	きれごろんしゃ			きれいにさっぱりした人	
	ぎゅうらし		○	仰々しい(おどろいた時)	

方言		志	喜	標準語	備考
く (3)	ぐうみる			不遇に会う	
	くね山			屋敷内のうら山	
	くらさみ			暗いなか	
け (1)	げにゃかなわんくせ			身のほども知らないのに	
こ (9)	ごっつんごうする			ぶつける	
	ごっそり			根こそぎ全部	
	こんじょくされ			根性が悪い人をいう	
	こったてる			積み上げ放置する	
	こっぱまる			座り込む	
	こましゃくれ			子供が急に大人のまねをする	
	こって牛		○	牡牛	
ごっつける			ごちそうになる		
こんじょくされ			根性が悪い人		
さ 行					
さ (1)	さしがく			心配してせきたてる	
し (10)	じんべん		○	よくぞ	
	しょて	○	○	もとは、以前は	
	しよんなか		○	仕方がない	
	しかぶる	○		小便など粗相する	
	しこてこ・しこたま	○		沢山	
	しちやくわちゃ			目茶苦茶、全くの度はずれ	
	しけしけむなかじょん			軽少で粗末なものです	
	しよなのよか			しぐさがよい(踊など)	
	しんぶじん			辛抱する人 節約家	
しろぎれする			えり好みをする		
す (9)	ずざんか			うすら寒い	
	ずっくやす		○	こわす	
	ずんだれ		○	だらしない	
	ずった下る			ずり落ちること	
	すためる	○		水など最後まで流しきる	
	すらごと	○		うそ	
	すつとんばなし			いいかげんなわいだんなど	
	ずーし			汁ものごはん	
すやぐらしか			気味悪い		
せ (1)	せからし	○	○	面倒くさい、さわがしい	
そ (3)	そうだける			片付ける	
	ぞろびく		○	裾など長すぎて引きづる	地面を引きづること
	そりゃしもた	○		それはしまったことだ	そりゃ(それは)
た 行					
た (5)	たたくりよる			布などが一部に重なり合う	
	だまくらかす			うそを言ってごまかす	
	たりにかぶる			主として大便の粗相	
	だあだ		○	馬の幼児語	

【註】表中、前述の志田一夫、喜々津健寿の研究実績中確認できる方言には○、類似の事例が確認できる方言には△を記し、備考では各事例を紹介した。

	方言	志	喜	標準語	備考
	だんじゃなか			かわかり合う余力がない	
ち (11)	ちいけん	○		じゃんけんの子供ことば	
	ちよっけに			ちよっとの間	
	ちびら (もよごさんごと)	○	○	藁ぎれの一つ (全く手伝いしない)	
	ちよくらかす		○	はぐらすか。からかう	ごまかす
	ちゃあほい			始まりのかけ声 (せ～の)	
	ちんちよか	○	○	珍しい	(喜) おかしい
	ちげじん			変人	
	ちゅうたばなし	△		間接的に聞いたうわさばなし	…ちゅうた (そうだ)
	ちんちらもうて			とるものもとあえず	
ちよっけに			すぐさま、短時間のうちに		
ちーん こうれん	○		ちっとも来ない	ちーん (久しく)	
つ (2)	ついゆきっか	○		あんまりひどすぎる	ついゆ (あんまり)
	つうくれ	○		駄目なもの	
と (9)	どまぐれる			面くらう、正気を失う	
	とろか			鈍感な人をさす	
	どうもうする			老いぼれて心身の働きがしづる	
	どとれ	○		どとれ猫、ならず者	老いさらばえる
	どうわる		○	どうでもよいと投げやる	(川) どうわるか～とこがわるいか
	とつけむなか	○		途方もない、とんでもない	
	どりろこいる		○	どうにかこうにか	
	とえる		○	とりいれる	しまう
どげんしとっと	○		どうしていますか	どげんな、どげんどげん、とげんぢゃいる	
<b>な 行</b>					
な (4)	なんのげん なか	△		何の心配もない	なんの (何ともない)
	ないたくれる	△		ひどくつかれる	なえた (疲れた)
	なおうてねる			うたた寝から寝床に移って寝る	
	なおす			しまいこむ	
に (1)	にくじ		○	強いていじ悪くする	人のいやがること
ね (2)	ねはめる			寝たきりになる	
	ねおる		○	病気になる	
の (1)	のさんごときつか	○		しんぼう出来ないほど疲れた	のさん (こらえきれない)
<b>は 行</b>					
は (4)	はぶつる	○	○	腹を立てる、ふてくされる	(喜) すねる
	はたげる	○		広げる	足をはたげる
	はまる	○		(服装や心が) 仕事にふさわしい状態	腰をすえて
	はぎなか			時間の余ゆりもなく再び	
ひ (7)	ひらがり	○	△	昼食	(喜) ひらがい
	ひようげる		○	おどける	



方言		志	喜	標準語	備考
ひ (7)	ひようすらい			軽く信頼がおけない人	
	ひとりゆうど			働き手が1人しかいない家	
	ひっこがす			引き抜く	
	ひよけらんと			ひよっこりと	
	ひとしんでのなか			他人から信頼のない人	
ふ (6)	ぶっさむなか			もの足りない、意地悪い	
	ふうてんわるういう			口ぎたなく	
	ふゆなし	○		なまけもの	
	ふとっちょ			ふとっている人	
	ふうけもん	○		常軌を逸している、変わっている人	愚かな
へ (2)	べらっしょ		○	ぜんぶ (喜)べらっと	
	べた足			偏平足	
ほ (2)	ぼとくれる			野暮ったくなる	
	ぼけっとしている			ぼんやりしている	
<b>ま 行</b>					
ま (1)	まめなか	○		よく働く、細かなことによく気がつく	
め (1)	めえすける	○		ごまかす、へつらう	
<b>や 行</b>					
や (10)	やせむなか	○		なさけない	やっせむなか (遣りせなく残念)
	やせぎす		○	やせた体	
	やてど		○	雇い人	
	やっつらかし			やり放題 あとと野となれ調	
	やぜらしか	△		面倒くさい、うるさい	やぜくろしか (うるさい)
	やにつか			むし暑い	
	やぐらしか	○		汚い、面倒くさい	
	やくてむなか	○	○	無駄なこと、馬鹿らしい	
やぜましか			面倒くさい、さわがしい		
やいやわい			何とも困ったことだ		
ゆ (2)	ゆう口はひんうち			言った時の唾が乾かないうち	すぐさま
	ゆうゆうのさん	△		どうにも、こうにも耐えられん	ゆうゆ (みな)
よ (4)	よこぞ	○		囲炉裏で主人の座る席	正面の座
	よかしこ	○		沢山	よかしこら (よい程)
	よんによ	○	○	沢山、大勢	
	ようらと		○	やわらかく ゆっくりと そつと	
<b>わ 行</b>					
わ (1)	わや	○		駄目になる	

## 現在使われている方言

表3-7は市史編さん室が今回の調査で使用した調査票である。調査票は、東彼杵郡教育委員会編『東彼杵郡誌』、西島宏「長崎県方言概観」、同「長崎県方言語彙の分布相概観(上)」などの先行研究で採取された方言を抜粋し、作成したものである。調査は市内の農村部、漁村部、山野部から六〇歳以上で市外への転出経験のない男性三名(七〇歳代一名、六〇歳代二名)、女性三名(七〇歳代二名、六〇歳代一名)から協力を得て、平成二十七年に実施した。調査対象者の詳細は次のとおりである。

事例1 男性(昭和十一年生まれ)。沖田出身、実家は農家。昭和四十八〜六十一年は九電産業勤務、以降は農家。女性(昭和十六年生まれ)。三浦出身、実家は農家。昭和三十七年に右の男性と結婚。※事例1は夫婦揃った状況で聞き取りを実施した。

事例2 女性(昭和十二年生まれ)。今富町出身、実家は農家。結婚後も農家手伝い。昭和五十五〜平成六年に市内のゴルフ場勤務。

事例3 男性(昭和二十六年生まれ)。玖島一丁目(東浦)出身、実家は漁師(知る限りでは四代前から)。一五歳から漁師。

事例4 女性(昭和二十四年生まれ)、中岳町出身、実家は林業。近隣の郵便局、介護施設、保育所に勤務。

事例5 男性(昭和三十一年生まれ)。宮代町出身、実家は農家。公務員。

(平成二十七年時点)

調査結果を年齢層で分けて表にすると、表3-8が七〇歳代、表3-10が六〇歳代である。なお、表に結果として示した方言は各年齢層の三名のうち、二名以上が現在も話すと回答したものである。それに加えて表中の方言に該当するが同意で使う方言と、表中の方言に該当しないが同意で使う言葉を掲載している。同意の方言、言葉を採取したのは経年の変化を記録するためである。

表3-7 調査票

文章

日付：

番号	語句	方言
1	いいけれども	よかいじょん
2	日が暮れたから	日が暮れたけんが
3	無くなってしまおう	なしなる
4	昔サルとカニがおったそうだ	昔サルとカニがおったちゅうた
5	よく見たところ、知らない人であった	良く見たりばしらん人ぢゃった
6	よそへ行かないで家にいるよ (同等もしくは家族等に対して)	よそへいかぢな (でな) えんちんおれやー
7	明日私が行きます	明日私が来ます
8	来なさい、ください	きなっせ、くんなっせ
9	そんなことはするなよ、早くこれをせよ (目下の人に対して)	そぎえんこたするまえ、はようこりばした
10	これをしてくれ	こりばしなえ
11	知っているよ	知つとるばな
12	来られる、言われる (敬語)	こらす、いわす
13	どこにいきなざるやら (敬語)	どけゆきなっしろ
14	もう帰りなされたか (敬語)	もう帰りなつてろ
15	買ってくださいませ	こうておくだし
16	あいつらはできんぞ、そんなにするなよ	あつどもできんざい、そぎえんするまえさり
17	この前、おれが言ったじゃないか (男性：相手の理解を促す) あの俳優はあの時 (の映画に) 出てきたじゃないか (女性：相手の理解を促す)	こんまいおりがゆーたたいろー ありゃーあんときでできたたいねー
18	入れ物ごと持ってくる (包容)	入れ物ながら (ごてー) 持ってくる
19	私	男性：おい、わし、おり 女性：うち
20	あなた	男性：わが 女性：あんた
21	歪んだ、取れた、燃やせ、食えの頭につける語句 (意味を強める)	ひんゆがむ、おつとれた、つん燃やす、いち食え
22	あれまあ (感動詞)	あつてまあ
23	はい、いいえ、不同意 (返事)	へい、はあ、いんえや、いんぢゃ
24	敬称 ～さん	やん
25	さようなら	さよござっしょ

言葉、言い方

番号	語句	方言
1	父	おとやん、おっちゃん
2	母	おっかやん
3	祖父	おぢやん
4	祖母	おんばやん、うんばやん
5	おじさん、おばさん	おんぢやん、おばやん
6	夫、嫁	ごて、よめご
7	女	おなご
8	子ども	ごどん、ごんび
9	貝、鯛、蠅	かえー、たえー、はえー
10	眉	えー 又は みゃーげ
11	咳をする	こずく
12	頬	ふーと
13	膝頭	ひざんかっぷ、ひざんかっつ、ひざんこっぽ
14	つむじ	ちょーまき
15	尻	とーばた
16	昼間	ひなか
17	井戸	つりかわ
18	天枰棒	やまおこ
19	嘘をつく	ゆらごとゆう
20	珍しい、変わっている	ちんちよか
21	たくさん	よんによう、よんにゆう
22	非常に、大変	ごうぎに
23	きたない、いやらしい	やぐらし
24	そーと、しずかに	そーらと
25	あんな、そんな	あぎえん、そぎえん

## ■一・七〇歳代の調査結果

表3-8から文章と語句合わせて全五〇の設問のうち、半数を割るもの二一個の方言が現在でも使用されていることを確認できた。また、調査で示した方言は使わない場合、どう表現するかを聞き取った結果を表3-9にまとめた。現在は使わないとしても、「なしなる」⇨「なししなる、なししなった」「みゃーげ」⇨「めーげ」「ひざんかつぶ」⇨「ひざんかつぼ、ひざかつぼ」「つりかわ」⇨「つるかわ」、「やまおこ」⇨「やまこ」(写真3-1)、「あぎえん、そぎえん」⇨「あげん、そげん」という回答のように、類似した方言が現在も使われている。

更に先行研究で示された事例について、聞き取りによって次のような回答が得られた。

〈事例1〉(農村部 七〇歳代男性、女性)

「ごーぎ」は「非常に、大変に」という意味では使わない。

「ごて」は夫ではなく、「婿養子」の意味。

「こんび」は言わない、聞かない。

「ちんちよか」は、「変わっている」の意味を含む。

〈事例2〉(農村部 七〇歳代女性)

「ごーぎ」だけでは使わないが、「ごーぎらしか」(⇨物が多い状態)は使う。

〈事例1〉・〈事例2〉

歪んだ、取れた、燃やせ、食えの頭に付けて意味を強める語句のうち、食えの頭につける「いち」は自分が主語の場合のみ「いち食うた」のように使う。

## ■二・六〇歳代の調査結果

全五〇の設問のうち、七〇歳代よりも更に減って一四の方言が現在でも使用されていることを確認できた(表3-10)。表3-11は、方言を使わない場合、どう表現するかを聞き取った結果である。六〇歳代は地域によって、違いが見られた。

表3-8 70歳代で使われる方言

番号	方言	語句・文章	該当するが、同意で使う方言	該当しないが、同意で使う方言
1	よかいじょん	いいけれども	そいじょん	よかけど、よかじょん
2	日が暮れたけんが	日が暮れたから		暮れたけん
3	よそへいかぢな(でな)えんちんおれやー	よそへ行かないで家にいるよ (同等もしくは家族等に対して)	いかんちゃ、いかんで	
4	昔サルとカニがおったちゅうた	昔サルとカニがおった <u>そうだ</u>	おったとばい、おったちゅうげな	おったとよ、おったとちばい
5	良く見たりばしらん人ぢゃった	よく見たところ、知らない人 <u>であ</u> った		やった、やったとぞ
6	こらす、いわす	来られる、言われる(敬語)		
7	ありゃーあんときでできたたいねー	あの俳優はあの時(の映画に)出てきた <u>じゃないか</u> (女性:相手の理解を促す)	でとらしたたー	
	こんまいおりがゆーたたいるー	この前、おれが言った <u>じゃないか</u> (男性:相手の理解を促す)	ゆーたじゃななか	
8	入れ物ながら(ごてー)持ってくる	入れ物 <u>ごと</u> 持ってくる(包容)		
9	男性:おい、わし、おり 女性:うち	私		女性:おんだち
10	男性:わが 女性:あなた	あなた		
11	ひんゆがむ、おっとれた、つん燃やす、いち食え	歪んだ、取れた、燃やせ、食えの頭につける語句(意味を強める)		
12	あってまあ	あれまあ(感動詞)	女性:ありゃー	
13	いんぢゃ	いいえ、不同意	いんにゃ	
14	おとやん、おっちゃん	父		とうちゃん、おとさん
15	おぢやん	祖父		じいちゃん
16	こどん、こんび	子ども		こどもさん
17	おなご	女		
18	ちよーまき	つむじ		
19	とーばた	風		
20	すらごとゆう	嘘をつく	だましくる、だまつく	
21	ちんちょか	珍しい、変わっている		
22	よんによう、よんにゆう	たくさん		
23	やぐらし	きたない、いやらしい	よそわし	
24	そーらと	そーつと、しづかに	こそーつと	

表3-9 表3-7のうち確認できなかった方言の変化(70歳代)

番号	方言	方言の現状
1	なしなる	なししなる、なししなった、なかごとになってしまう
2	昔サルとカニがおったちゅうた	おったとばい、おったとちばい、おったちゅうげな
3	明日私が出来ます	いくけん、くっけん
4	きなっせ、くんなっせ	こんね、くれんね
5	そぎえんこたするまえ、はようこりばした	そげんことすんなよ、はようこりばせんか そげんことはせんちゃ、はようこりばせんね
6	こりばしなえ	こいばしてくれんね、こいばしてくった
7	知っとるばな	知っとるよ、知っとるばい
8	どけゆきなっしろ	どけいかすと
9	もう帰りなってる	かえってこらしたやろか、かえらしたなあ
10	こうておくだし	こうてください、こうてくれんな
11	あつどまできんざい、そぎえんするまえさり	できんけん、すんめえよ できんぞ、すんな
12	やん	さん
13	さよござっしょ	さいなら、さよなら
14	おっかやん	おっかさん、おっかあ、かあちゃん
15	おんばやん、うんばやん	おんば、ばあちゃん
16	おんぢやん、おばやん	おぢやん、おんぢさん、おばちゃん、おばさん
17	ごて、よめご	むごさん、よめさん
18	かえー、たえー、はえー	けー、たえー、はえー(へー)
19	えー 又は みゃーげ	めーげ
20	こずき	咳をするを「こずく」という、名詞はない
21	ふーと	ほっぺた
22	ひざんかっぶ、ひざんかっつ、ひざんこっぼ	ひざんかっぼ、ひざかっぼ、ひざ
23	ひなか	ひんのめ
24	つりかわ	つるかわ、いど
25	やまおこ	やまこ
26	ごうぎに	ひどう
27	あぎえん、そぎえん	あげん、そげん



写真3-1 やまこ

表3-10 60歳代で使われる方言

番号	方言	語句・文章	該当するが、同意で使う方言	該当しないが、同意で使う方言
1	日が暮れた <u>けんが</u>	日が暮れた <u>から</u>	くれたけん	くれたじょんが
2	明日私が <u>来ます</u>	明日私が <u>行きます</u>	くっけん、くるけん、くる、いくけん	
3	<u>こらす</u> 、 <u>いわす</u>	<u>来られる</u> 、 <u>言われる</u> (敬語)	こらっと、いわっと	
4	あの俳優はあの時 (の映画に) 出てきた <u>じゃないか</u> (女性：相手の理解を促す)	ありゃーあんときで <u>きたたいねー</u>		
	この前、おれが言った <u>じゃないか</u> (男性：相手の理解を促す)	こんまいおりが <u>ゆーたたいろー</u>		いったろー、いったやろー、ゆーたろー
5	<u>入れ物ながら (ごてー) 持ってくる</u>	入れ物 <u>ごと</u> 持ってくる (包容)		
6	男性：おい、わし、おり 女性：うち	私	男性：おっが、複数形で「おいたち」＝「おんだち」	
7	男性：わが 女性：あなた	あなた	男性：わい	男性：わい、わがも
8	ひんゆがむ、おっとれた、つん燃やす、いち食え	歪んだ、取れた、燃やせ、食えの頭につける語句 (意味を強める)		
9	ちょーまき	つむじ		
10	とーばた	凧		とばた
11	やまおこ	天秤棒	やまこ	いねぼう
12	すらごとゆう	嘘をつく	だまゆう	
13	ちんちよか	珍奇だ、嫌だ	へんちよか	
14	よんにょう、よんにゆう	たくさん	ようけ	

特に事例3の場合、「なしなる」なくなる、「よせな いかぢな えんちん おれや」(よそへ行かないで家にいろよ)、「おなご」(女性)、「ごどん、こんび」(子ども)、「ひなか」(昼間)など年齢層問わず、色濃い方言が残っていた。

また、聞き取りによって、次のような回答があった。

〈事例3〉(漁村部 六〇歳代男性)

「ごーぎ」は「ごーぎいう」(ふざけたこと言っつて、のぼせて)で使う

「やぐらし」は「よそわしか」と同じで「うっとおしい、せからしい」の意味で使う

〈事例4〉(山野部 六〇代女性)

「やぐらし」は、「汚い」の意味で使わない。

参考までに七〇歳代、六〇歳代に共通して確認できた方言のうち、特殊な音である「ちよーまき」「ちんちよか」について語源を推測すると、まず「ちよーまき」は、つむじを意味するが、「ちよう」という語に「かしら」「最高責任者」の意味があり、聞き取り時のしぐさからも頭のとっぺん「頂」を指し、渦状を示す「巻」が合わさったものと考えられる。また、「ちんちよか」は珍奇の意で使用されることから、「珍重」に語源を発すると考えられるが、本来の「珍しい」として大切にすること「から」変わっているの意味もあるので、「珍妙」＝「かわっていておかしいこと、奇妙」の意味を包括しているものと考えられる。しかしながら、「嫌だ」の意について、同意で使用する「ちんちよか」では理解が難しくなる。そのほか、調査時に聞き取れた方言を表3-12にまとめた。

以上、方言について紹介したが、聞き取り対象者からしばしば聞けたのは調査票に挙げた方言を使用するのはもつと上の世代、八〇歳代、九〇歳代とのことであった。かつての家族形態下においては方言が温存されてきたようであるが、現在では核家族が主で、テレビ・ラジオの影響、学校教育の浸透、また産業構造の変化とそれによる居住地の変動、さらには祖父母と孫の会話においては孫が理解できる言葉への言い換えによって、いよいよ方言の伝承は困難になっている。



表3-11 表3-7のうち確認できなかった方言の変化(60歳代)

番号	方言	方言の現状
1	よかいじょん	よかとじょん、よかばってん、よかけど
2	なしなる	なかごとになった、なくないよ
3	昔サルとカニがおったちゅうた	おったごたっじょん、おったごたった、おったとよ
4	良く見たりばしらん人ぢゃった	やったばい、やった、ごたった
5	よそへいかぢな(でな)えんちんおれやー	ゆかんで、いかんで、うちんがたおらんば
6	きなっせ、くんなっせ	こえ、くっじよ、こんね、くれんね
7	そぎえんごたするまえ、はようこりばした	すんなよ、せんばぞ せんでよ、してよ
8	こりばしなえ	してくれんね
9	知つとるばな	知つとっばい、知つとるよ
10	どけゆきなっしろ	どけゆきなさつと、どこにいかすとやるね
11	もう帰りなってる	もうかえりなさつたとか、もうかえらしたやるか
12	こうておくだし	こうてくつた、こうてくれんね、ください
13	あつどまできんざい、そぎえんするまえさり	あいたちできんぞ、そげんすんなよ
14	あつてまあ	あいやー、あら
15	へい、はあ、いんえや、いんぢゃ	うん、はい、いいや、いんにゃ、うんにゃ
16	やん	さん、ちゃん
17	さよござっしょ	さいがっしょ、あいば、さいなら
18	おとやん、おつちやん	とうちゃん
19	おっかやん	かあちゃん
20	おぢやん	おじ、じいちゃん
21	おんばやん、うんばやん	ばあちゃん
22	おんぢやん、おばやん	おじちゃん、おばちゃん
23	ごて、よめご	よめさん
24	えー 又は みゃーげ	まゆ、まゆげ
25	こずく	咳して=こじいて、という地域もある
26	ふーと	びんた、ふーたん、ほつぺた
27	ひざんかつぶ、ひざんかつ、ひざんこっぼ	ひざんかつぼ、ひざ
28	ひなか	ひるま
29	つりかわ	いど
30	そーらと	じわっと
31	あぎえん、そぎえん	あげん、そげん、あがん、そがん

表3-12 そのほか聞き取りで採取した方言

べーら=たきぎ用の木	えんちた=自分の家
いいじ=わらでつくつた紐	えーのうち=午後6時~12時
ぶげんやま=武留路山、郡岳	いなう=せおう
ほつつらかす=ちらかす	はえなわ=なわはえ
つんぬく=とおす	みてくっせ=みてください
もつてきたー=もつてこんね	梅雨=ながし
ぎゅーさん=仰山	きつてもで=(魚を)さばいて食べようで
えんち=自分の家	おいげ=自分の家
としおじさん=曾祖父	わいんかた=あんたの家
いなう=背負う	とぜんなか=さみしい
でけん=つまらない	あつたらかつた=もつたいなかつた
もつてなもんやつたな=非常にもつたいなかつた(悔しいの意味を含む)	

### 三 ひとわざ・俚諺

方言と同様に口頭で伝承する言葉にことわざや俚諺がある。地域の生活・風習を伝える無形の文化財ともいえるものである。市全体でこれまでそうした先行研究はほとんどないが、竹松を語る会編『むかしの竹松』（竹松を語る会一九九五）で次のようなものが挙げられる。主に、天候に左右される農家の人々がその予兆を表したものが多そうである。

春山、秋海

春沖、秋山

春北風に冬雨、いつも東は常降りの雨

夏の風邪は犬も引かぬ

夏の東風虫のもと

夏の夕立タバコ映え

夏は日向、冬日陰

夏歌う物は冬に泣く

秋の朝焼け雨近し

秋の稲妻実りよし

秋の空は七度半変わる

秋の西風溝掘って構えよ

秋の夕焼け鎌研いで待て

秋の南風は猿の尾程吹いても降る



写真3-2 稲刈り後の風景

秋の彼岸は農家の厄日

冬雪は豊作

冬の東風、雨が降る

冬の南風雪連れる

冬の南風は隣回りもできず

冬の風は網の目くぐる

前回の『大村市史』でも集約されているが、全国共通のものが多い。ここでは本編の編さんに合わせて地元地域の歴史や風俗に明るい本市在住の上野盛夫、川村勝信の二氏に市内で聞き取り調査を依頼し収集された結果を、表3-13にまとめた。

第一次産業に従事する人々にとって、自然、季節、天候や自然は切っても切れない密接な関係にあり、その結果多くのことわざや俚諺が生まれ、語られてきたが、現在は第一次産業人口が減少したこともあって伝承が難しくなっており、今後はますます減少の一途を辿る可能性がある。そうしたことを鑑みると、今回の調査は市内全域ではないにしろ、市民の協力を得て、現在に伝わることわざ・俚諺を記録に留めることができた意義は大きい。

表3-13 市内で聞き取れたことわざ・俚諺

対象	ことわざ・俚諺
福重	卯の日は田植えするな
	四十九日は三月にまたがるな
	盆の16日は地獄の蓋が開くから(仕事や)泳ぎはするな
	家は沢筋には建てるな
	これ(この料理)は長崎が遠い
	怠け者の節句働き(ふゆじの節句働き)
	怠け者の重荷(ふゆじのおぶに)
	隣の境をくじいて作った米は野辺の米(境界越えて隣の田んぼに作った米は(身内、親戚の)葬式用の米になるから、そのようなことはするな)
	百舌鳥の声を聞けば台風は来ない
	焼けの陽は台風
	川の水は三尺流れれば仏の水
	朝、雷様(の日)は隣に行くようなことはするな
夜明けの雨は傘いらず	
松原	苦潮(赤潮)が立っている時は魚が獲れる
	アマメの上るときには大しけ前
	船玉様の声が聞こえる時は豊漁
萱瀬・福重	正月16日に山仕事(大工仕事)はするな
	仏滅、三隣亡の日には家を建てるな
	朝雨に下駄いらず
	出もの、腫れもの所かまわず
	しいなの先走り
萱瀬	流し(梅雨)夕焼川越すな
松原	流しの夕焼け代を搔け
古賀島	流しの夕焼け井手はずせ
	朝ばらつきに傘持つな
箕島・新城	朝東風(あさこち)・昼南風(ひるはえ)・夕真西(ゆうまにし)・夜は北
中山間(赤土)地域	黒土(富の原地域)に行く時は着物を一枚多く着て行け

【註】表中の箕島・新城、中山間(赤土)地域のことわざに関しては、川村勝信『大村「風」物語(一) 松田道猷外伝(二)』(川村勝信 2012)から引用した。また( )で読み、意味、別の表現等を補足している。

## 註

## (1)

大中三三会編「大村の方言」刊行委員会編「大村の方言」(大中三三会編「大村の方言」刊行委員会 一九八二)による。しかし、勝田直子「校訂大村氏系譜」(大村史談会編「九葉実録」別冊 大村史談会 一九九七)によれば、京都から来ていたのは、戦国時代の領主純忠、五代藩主純尹、七代藩主純富、九代藩主純鎮の側室である。

## 参考文献

- 東彼杵郡教育会編『長崎県東彼杵郡誌』(東彼杵郡教育会 一九一七 名著出版 一九七四復刻)  
 志田一夫、松本豊、清水辰一編「大村の方言」(長崎県立大村中学校交友会学芸部編「玖城」第三十一号「特輯 郷土教育資料方言之部」長崎県立大村中学校交友会学芸部 一九三七)  
 東条操編『全国方言辞典』(東京堂 一九五一)  
 志田一夫「大村の方言について」(大村史談会編「大村史談」第九号 大村史談会 一九七四)  
 志田一夫「大村の方言について」(大村史談会編「大村史談」第十号 大村史談会 一九七五)  
 大中三三会「大村の方言」刊行委員会編「大村の方言」(大中三三会「大村の方言」刊行委員会 一九八二)  
 大村市史編纂委員会編「大村市史」下巻(大村市役所 一九六二)  
 川村勝信「大村」風「物語」(一) 松田道猷外伝(二)(川村勝信 二〇二二)  
 喜々津健寿「川棚の地名・人・方言」(喜々津健寿 一九七四)